

「命の重さを実感」

2008. 7. 10

赤ちゃん登校日事前授業



赤ちゃんの人形を抱く生徒

湯梨浜町久見の東郷中で6日、「赤ちゃん登校日事前授業」が行われた。生徒たちは、命の始まりから赤ちゃん誕生までの過程を助産師から学び、命の尊さについて考えた。

日本助産師会鳥取県支部の助産師、平田すが子さん、牧田妃佐子

さんを講師に迎え、3年生59人が学んだ。平田さんらは、エコー写真や成長段階ごとの人形を使うなどして、母体内での成長を分かりやすく紹介。妊婦のおなかに心拍計を当てて胎児の心臓の音を聞かせ、命が体内に宿っていることを実感

させたほか、赤ちゃんの人形を抱かせ、「赤ちゃん登校日」での赤ちゃんとの触れ合いをイメージさせた。

また、これまでの実体験を交えて死産について話し、「無駄な命はなく、皆が待ち望まれて生まれてきた大切な命。自分も友達の命も大切にしてほしい」と呼び掛けた。

松田伊久磨君(14)は「生まれてきた命は親

に大切にされている命。一人一人の命が重い命だと実感した」と話していた。

(平田聡)